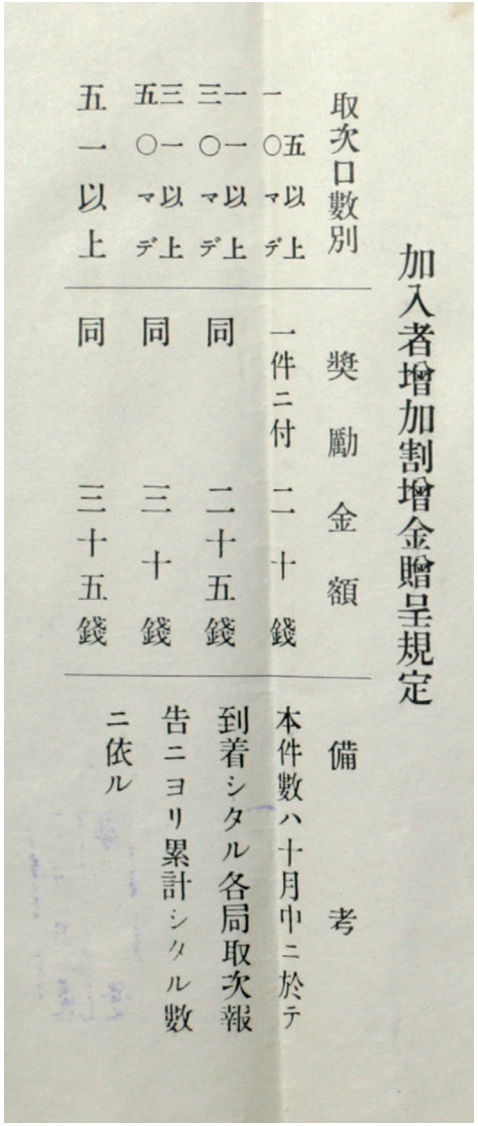
5-1-7　新しい文化と生活

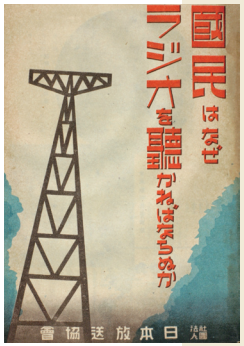
大衆文化の発展（ラジオ放送の普及）



加入者増加割増金贈呈規定

取次口数別	奨励金額	備考
一〇五以マデ上	一件ニ付二十錢	本件数ハ十月中ニ於テ到着シタル各局取次報告ニヨリ累計シタル数ニ依ル
一〇一以マデ上	同二十五錢	
三〇一以マデ上	同三十錢	
五一以上	同三十五錢	

＊土山家文書666「ラヂオ加入者増加勧誘依頼」



＊写真右は1941（昭和16）年5月に日本放送協会から出された「国民はなぜラジオを聴かねばならぬか」（図書699）です。その中には次のように書かれています。「なぜ国民はラジオをきかねばならぬか！　ラジオは民族発展の運命を決するからです。」「ラジオは国家の意思を直接に強く正しく国民に伝えます。ラジオをつける事はとりも直さず国民として国策に協力することです。」ラジオ放送が戦時体制強化に利用されていたことがわかります。

解　説

わが国のラジオ放送は1925（大正14）年，東京と大阪で始まりました。続いて名古屋でも始まり，放送開始以来わずか1年半で，聴取者数30万という爆発的な普及をみました。

翌1926（大正15）年には，東京・大阪・名古屋の3放送局が合同し「社団法人日本放送協会」が誕生しました。広島・熊本・仙台・札幌にも放送局が新設され，ラジオによる情報の伝達網が整備されていきました。

中国地方では1928（昭和3）年7月に広島放送局が開局しました。広島放送局における加入者数は，開局時には加入申込が4,800件あったものの，その後はさほど加入が伸びませんでした。左の写真は，10月1日に，ラジオ申込取扱者にあてて出された，加入促進の依頼文書です。これは昭和天皇即位式（同年11月10日）のラジオ放送計画を機に加入者増大を図ったもので，新規加入者数に応じて取扱者に仲介手数料のほかに奨励金が払われることになっています。その後も経済界の不況もあってあまり普及が進みませんでしたが，1931（昭和6）年の岡山・小倉放送局の開局，受信機の低価格化と品質の向上，さらに満州事変の勃発で戦況や国内状況の迅速な情報取得が必要となったことから，同年から加入者が急増しました。また，戦時下にあって，政府は，国防強化の面からラジオ放送を聴取することを奨励し，一層ラジオの普及に拍車がかかりました。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る